

空土ファーム生きもの調査 8月報告書

1. 調査の概要

1) 調査の目的

山梨県北杜市須玉町増富地域にある空土ファームの中で、2018年度に再耕作された耕作放棄地の生物多様性がどのように変化するか、周辺環境も含め調査を実施する。また、その調査結果をもとに、一般向け自然観察会の実施や、ハンドブック作成も視野に入れる。

2) 調査方法・結果

①調査地：山梨県北杜市須玉町増富地区「空土ファーム」とその周辺緑地（図1、図2）

なお、今回の調査では、4カ所の調査地点を設定し、地点ごとに確認した動植物を整理した。また、2018年に設置したビオトープ池も調査地点として設定した。

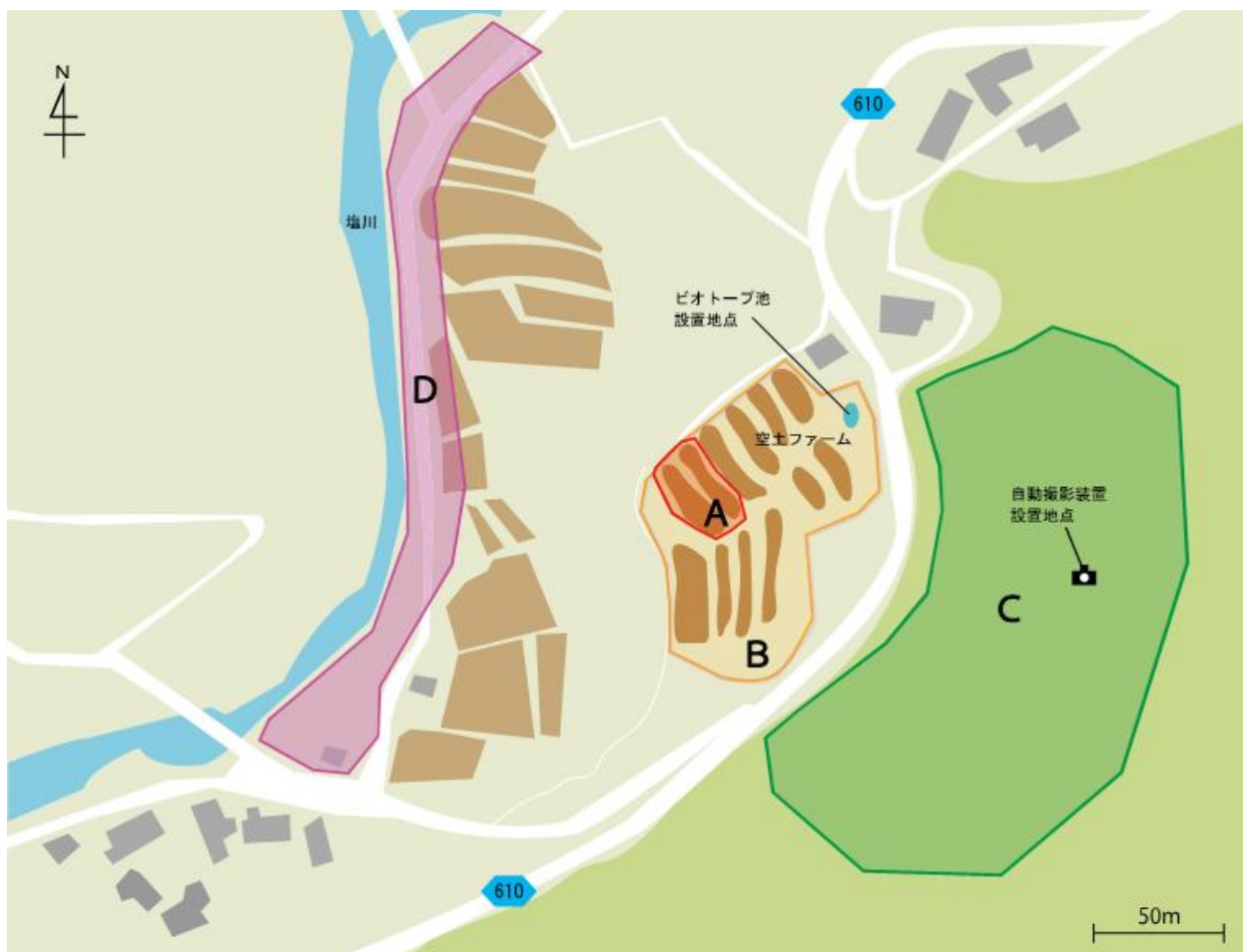


図1 調査エリアマップ

②調査日程：2020年8月28日 10:00~16:00



A 地点



B 地点



C 地点



D 地点



ビオトープ池

図2 各調査地全景

③調査対象 : 鳥類、チョウ・トンボ・バッタ類等の大型昆虫類を中心に、姿・声・行動等を確認すると共に写真撮影を行った。両生類、は虫類、ほ乳類等は適宜調査した。植物に関しては、開花・結実しているものを記録した。また、C 地点に自動撮影装置を設置し、夜間に活動する哺乳類などの記録を行った（図 3、4）。



図 3. 設置された自動撮影装置の様子



ニホンザル



ニホンイノシシ

図 4. 記録された生きもの

2. 空土ファームで見られた生きものたち

1) 空土ファーム 生きものピックアップ

オニヤンマ (B、C、D 地点) :

今回の調査では、3 エリアでオニヤンマが確認されました。オニヤンマは小川のような場所で産卵を行うため都市部ではあまり見られませんが、空土ファーム周辺ではオニヤンマの生息に適したせせらぎが多くあるため、多くのオニヤンマを見ることができます。



オニヤンマ (B,C,D 地点)

2) 各調査地で見られた生きものたち



オオアオイトトンボ (C 地点)

樹林に囲まれた湿地を好むため、樹林地の C 地点でこれまでも確認されています。



ヤマトフキバッタ (D 地点)

主に山地に生息するバッタの仲間です。低木の上で見られることが多いです。



ヒメギス (A,B 地点)

湿った草を好むため、空土ファームの休耕田で数多く見られます。



オオキイロマルノミハムシ (D 地点)

空土ファーム周辺でも見られるボタンヅルの葉を食べる甲虫の仲間です。



ワキグロサツマノミダマシ (D 地点)

草と草の間に網を張るクモの仲間です。屋間は葉の裏などに身を隠しています。



イヌゴマ (D 地点)

塩川沿いの林の側に生えていました。花にはハナアブの仲間など、昆虫類が飛来していました。

3) 空土★生きものコラム ～フンに擬態する生きものたち～

今回の調査では、塩川沿いのD地点でオオトリノフンダマシというクモの仲間が確認されました。このクモには「フンダマシ」という変わった名前がついていますが、その名の通り、どこことなく鳥のフンに見えるような気もします。

名前にフンとつくると可哀想な印象を受けますが、実は自然界ではフンに擬態する生きものはたくさんいます。例えば、ヤナギやコナラには「ムシクソハムシ」という、虫のフンにしか見えない昆虫もいますし、都市部でたくさん植えられるツツジ類にも「ツツジコブハムシ」という、これまたフンにそっくりな昆虫が見られます。その他、皆さんおなじみのナミアゲハの幼虫も若齢のときは鳥のフンそっくりですし、スカシカギバというガの幼虫は、おそらくNo. 1とっていいほど、芸術的に鳥のフンそっくりに擬態します。これらの生きものの姿が気になる人はぜひネットで検索していただければと思います。

このように、他の生きもののフンに擬態する生きものは意外と多くいますが、もちろんメリットがあるから擬態をするわけです。フンに擬態することにより、クモ類や昆虫類の天敵である鳥類から身を守っているのだと考えられます。今回はフンに擬態する生きものを取り上げましたが、自然界の生きものの姿は千差万別です。生きものを観察する際、生きものそれぞれの形や模様の意味について、想像を膨らませながら観察してみてください。



オオトリノフンダマシ (D地点)

3. 調査結果

表.1 調査地内で見られた生物種(草本)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RL	環境省RL
A	カタバミ	○			
A	シロツメクサ	○			
A	スズメノヒエ	○			
A	タニソバ	○			
A	ツユクサ	○			
A	ハキダメギク	○			
A	ヘラオモダカ	○		準絶滅危惧(NT)	
A	ムラサキツメクサ	○			
B	アレチウリ	○			
B	イヌタデ	○			
B	オモダカ	○			
B	カタバミ	○			
B	カナムグラ	○			
B	キンエノコロ	○			
B	クサコアカソ	○			
B	ゲンノショウコ	○			
B	シロツメクサ	○			
B	スズメノヒエ	○			
B	セリ	○			
B	ツユクサ	○			
B	ハキダメギク	○			
B	ヒメクグ	○			
B	ヘラオモダカ	○		準絶滅危惧(NT)	
B	ヤマキケマン	○			
C	キンミズヒキ	○			
C	ヌカキビ	Fr			
C	ミズヒキ	○			
C	ヨウシュヤマゴボウ	○			
D	アレチウリ	○			
D	イタドリ	○			
D	イヌゴマ	○			
D	オオブタクサ	○			
D	カタバミ	○			
D	カナムグラ	○			
D	キツリフネ	○			
D	キンエノコロ	Fr			
D	クサノオウ	○			
D	ゲンノショウコ	○			
D	コアカソ	○			
D	コセンダングサ	○			
D	セイバンモロコシ	Fr			
D	ツユクサ	○			
D	ツリフネソウ	Fr			
D	ノコンギク	○			
D	ハキダメギク	○			
D	ヒキオコシ	○			
D	ヒナタイノコズチ	○			
D	ヒメアブラスキ	○			
D	ヒメジョオン	○			
D	ママコノシリヌグイ	○			
D	ミツモトソウ	○			
D	ムシトリナデシコ	○			
D	ムラサキエノコロ	Fr			
D	ムラサキツメクサ	○			
D	メヒシバ	Fr			
D	メマツヨイグサ	○			
D	ヤマタツナミソウ	○			
D	ヨウシュヤマゴボウ	○、Fr			
ビオトープ	イヌホタルイ	Fr			
ビオトープ	ヘラオモダカ	○、Fr		準絶滅危惧(NT)	

○:開花 Fr:結実 △:つぼみ ▽:花期終了

表.2 調査地内で見られた生物種(木本)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
D	アカメガシワ	○			
D	アブラチャン	Fr	未熟		
D	コクサギ	Fr	未熟		
D	ノブドウ	Fr	未熟		
D	ハリエンジュ	Fr	未熟		
D	ヤマハンノキ	○	未熟		

○:開花 Fr:結実 △:つぼみ ▽:花期終了

表.3(1/3) 調査地内で見られた生物種(昆虫)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	エンマコオロギ				
A	オオシオカラトンボ				
A	オツネトンボ				
A	オンブバッタ				
A	キアゲハ		幼虫		
A	キオビツチバチ				
A	コバネイナゴ				
A	ツバメシジミ				
A	ナツアカネ				
A	ナミテントウ				
A	ノシメトンボ				
A	ヒメギス				
A	ミヤマアカネ				
A	ヤチスズ				
A	ヤマトシジミ				
B	エンマコオロギ				
B	オオシオカラトンボ				
B	オニヤンマ				
B	オンブバッタ				
B	クルマバッタモドキ				
B	コアシナガバチ				
B	コノシメトンボ				
B	コバネイナゴ				
B	コバネササキリ				
B	シオカラトンボ				
B	ジャノメチョウ				
B	セイヨウミツバチ				
B	ツバメシジミ				
B	ツマグロオオヨコバイ				
B	トラマルハナバチ				
B	ナツアカネ				
B	ヒメアカネ				
B	ヒメウラナミジャノメ				
B	ヒメギス				
B	ヒメセアカケバエ				
B	ホソミイトトンボ				
B	マツモムシ				
B	ミヤマアカネ				
B	モンキチョウ				
B	モンシロチョウ				
B	ヤチスズ				
B	ヤマトシジミ				

表.3(2/3) 調査地内で見られた生物種(昆虫)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
C	アシナガオニゾウムシ				
C	アブラゼミ				
C	オツネトンボ				
C	オニヤンマ				
C	キンモンガ				
C	コノシメトンボ				
C	シラホシナガタマムシ		類似種あり		
C	ツクツクボウシ				
C	ナツアカネ				
C	ヒメアカネ				
C	マダラガガンボ				
C	ミンミンゼミ				
D	アキアカネ				
D	アブラゼミ				
D	イチモンジセセリ				
D	ウラナミシジミ				
D	ウリハムシ				
D	オオキイロマルノミハムシ				
D	オオチャバネセセリ			準絶滅危惧(NT)	
D	オニヤンマ				
D	オンブバッタ				
D	ガガンボ科の一種				
D	ガガンボ類				
D	カブトムシ		死骸		
D	カラスアゲハ				
D	キタキチョウ				
D	キタテハ				
D	キバネトゲアシクモバチ				
D	キンモンガ				
D	クサキリ				
D	クルマバッタモドキ				
D	コアシナガバチ				
D	コノシメトンボ				
D	コバネイナゴ				
D	コミスジ				
D	シオカラトンボ				
D	シオヤアブ				
D	シャチホコガ科の一種				
D	セイヨウミツバチ				
D	ツマグロオオヨコバイ				
D	ツマグロバッタ				
D	トラマルハナバチ				
D	ナキイナゴ				
D	ナツアカネ				
D	ナナホシテントウ				
D	ナミホシヒラタアブ				
D	ネキトンボ				
D	ハラビロヘリカメムシ				
D	ハラボソツリアブの仲間				
D	ヒカゲチョウ				
D	ヒバナツタ属の一種				
D	ヒメアカネ				
D	ヒメウラナミジャノメ				

表.3(3/3) 調査地内で見られた生物種(昆虫)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
D	ヒメギス				
D	ヒメジャノメ				
D	フクラスズメ		幼虫		
D	ベッコウハゴロモ				
D	ベニシジミ				
D	ホソハリカメムシ				
D	ホソヒラタアブ				
D	マメコガネ				
D	ミナミヒメヒラタアブ				
D	ミヤマアカネ				
D	ミンミンゼミ				
D	モンキチョウ				
D	モンシロチョウ				
D	ヤマトフキバツタ				
D	ルリシジミ				
ビオトープ	ヒメイトアメンボ				
ビオトープ	キアゲハ				
ビオトープ	コオイムシ			準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)
ビオトープ	ヒメアメンボ				
ビオトープ	ヒメゲンゴロウ				
ビオトープ	マツモムシ				

表.4 調査地内で見られた生物種(クモ類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	ナガコガネグモ				
B	サツマノミダマシ				
D	オオトリノフンダマシ				
D	サツマノミダマシ				
D	ドヨウオニグモ				
D	ナガコガネグモ				
D	ハキダメギク				
D	ワキグロサツマノミダマシ				

表.5 調査地内で見られた生物種(両生類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
B	ニホンアマガエル				
D	ニホンアマガエル				
ビオトープ	ヤマアカガエル				
ビオトープ	ニホンアマガエル				

表.7 調査地内で見られた生物種(鳥類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
C	キジバト	v	自動撮影装置		
C	コゲラ	c			
C	シジュウカラ	c			
C	ヤブサメ	v.c	幼鳥		
D	アオサギ	v.f			
D	ガビチョウ	s			
D	カルガモ	v.f			
D	キジバト	v			
D	キセキレイ	v.c			
D	サンショウクイ	v		準絶滅危惧(N)	絶滅危惧II類(VU)
D	シジュウカラ	c			
D	スズメ	v			
D	セグロセキレイ	v.c	成鳥、幼鳥		
D	トビ	v.f			
D	ハクセキレイ	v			
D	ハシブトガラス	v.f			
D	ヒヨドリ	c			
D	ホオジロ	v			
D	モズ	s			

v:目視 c:地鳴き s:さえずり fl:飛翔 fd:採餌

表.8 調査地内で見られた生物種(哺乳類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
C	ニホンザル		自動撮影装置		
C	ニホンジカ		自動撮影装置		
C	ニホンリス		自動撮影装置	要注目種(N)	
C	ハクビシン		自動撮影装置		
C	ホンドテン		自動撮影装置		
C	ニホンイノシシ		自動撮影装置		
C	ホンドタヌキ		自動撮影装置		